

平成26年第3回定例会（9月）一般質問

（1）昨秋からの急激な人口減少の要因と対策

- 議長 笹木 英二 順番2 宮下裕美子君、発言願います。
- 議員 宮下 裕美子 質問を始める前に今朝皆さんの机の上に月形町の人口推移というカラー刷りのグラフを1枚置かせていただきました。議長の許可を得て一般質問の1問目の資料として使いたいもので、皆さんこれを適時見ながら質問を聞いていただけたらと思います。宜しくお願いします。それでは一般質問を行います。1番目は、昨秋からの急激な人口減少の要因と対策についてです。月形町の基本的データを少しご紹介したいと思います。平成26年8月1日現在の人口は、住民基本台帳で3,613人でした。毎月の人口推移は広報に掲載されている他過去から年ごとの人口データは、町のホームページにも掲載され公開されています。1990年、平成2年の人口は5,125人でした。人口減少は多少のばらつきはあってもこの間平均すると1年間約60人ずつ減少しています。ただ、ここ2年程、平成23年度、24年度については、多少スピードがゆるんで24年度は、ほとんど減らず横ばいのようなとても珍しい状況だったと見ています。それでは細かいところを少し見ていきたいと思いますので、お手元の資料を見ながらお願いします。月別人口推移の基本パターンがうちの町の場合はありまして、年度はじめに人口が上昇し数箇月間は横ばい、その後徐々に減少して年度末に大きく減少するという弧を描くようなパターンが見られます。平成25年度は、基本パターンが崩れ年度当初から横ばいが続いた後秋から一気に下降、平成26年度は年度当初から下降の一途という状況になっています。この下降の影響でこの1年間これは8月1日のデータが最新でしたので、8月1日の最新データが赤い矢印です。1年前の所が青の矢印で示しているところですが、そこを基準とするとこの1年間で下の数字が示すように-142人となっており、この減少幅は今までにないとても大きなものであると言えます。そこで質問に移ります。この急激な人口減少の要因をどのようにとらえているのか。また、その対策をどう打つのか、お伺いいたします。
- 議長 笹木 英二 町長
- 町長 櫻庭 誠二 通告に基づき答弁させていただきます。議員ご指摘のとおり平成26年7月31日現在8月1日という表現をされていましたが、7

月31日現在というところでは人口3,613人であり、1年前と比べると142人ということで、ご指摘のとおり的人口推計であると感じているところでもあります。配布資料がいわゆる平成25年度の横ばい状況を基準として今は極端に下がっているけれどその対策ということであると思いますが、ずっと下がっていた人口が一時上がって減らなかった特異な現象と言われていましたが、これはまさしく月形刑務所収容者増というところで職員官舎が建ち上がったということからその入居者が増えたこと、これしか原因がないだろうと思いますが、それが増員の原因であったと感じているところでもあります。あまりにも小さな期間のところまで全てを語れというのは、ちょっと危険ではないか。そしてうちの町が現在3,600人という分母で142人も下がったという分母が小さい中でそれをあまり極端な表現をしていくのは、違うのではないかと感じております。平成20年6月から平成25年6月今朝ほど私も市町村振興協会が出している人口統計で見ると、20年6月そして25年6月というところでは、岩見沢市は20年91,836人が87,162人ということで5.1%の人口減少、月形町は4,011人が3,704人ということで7.7%の人口減少、そして沼田町では3,852人が3,417人ということで11.3%の人口減少、岩見沢市はもちろん空知管内の中核都市として道を含めた国の機関が全部入っている所でもあります。岩見沢市ですら5.1%ですし、推計を見ていくと岩見沢市を中心として北に行くほど人口動態として人口比率が極端に下がっていくというのが、推計結果から読み取れることでもあります。私たちの町であまりにも短期的に見る数字で、それをどのようにとらえているかということは、極めて危険なことではありますが、流入人口に対する流出人口がかなり多かったのが実際のところだろうと思っております。また、4月から8月にかけて随分減少していますが、今年の特徴的なことはお亡くなりになるお年寄りも実は本年に入ってから例年を上回るかたちでお亡くなりになっているということも、一つの結果として出てきていることだろうと考えております。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 自然減も大きくあったということでもありますが、人口流出転入に対して転出が多いことについては、刑務所、教員の皆さん、福祉施設これら全道・全国レベルで動いていく人たちが、やっぱり住む所の自由として月形町に定住してくれないことが、大きな課題としてあるだろうと読んでいるところでもあります。今後の対策ということですが、私たちの町は

他の町に劣らない対策はやってきたと考えております。産業的には新規就農の受入れについては、全道に先駆けて対応してきたと感じているところでもあります。観光宿泊施設についてもかつてはホテルとはな工房と2つの目的の違う施設を持っていました。そして、多くの町村で町立病院がなくなる状況の中で医療の確保ということもやっております。教育部門についても中学校そして高校ということでは3,700人を切る人口で、道立高校を持っていることについて、環境づくりとしてもしっかりやっていく。また、宅地造成・定住促進それらを含めたときに、しっかりやっていると思っております。この急激なということではなく今までもやってきた定住対策、人口を減らさないという意味で月形の魅力を発信していくということをしかりこれからもやっていきたいと考えております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今、町長からデータを交えながらいくつかご説明いただきましたが、データの見方に問題があるのではないかとこのところいくつかあったので、そこをご指摘させていただきます。先ほど平成20年6月から平成26年6月で空知の岩見沢・月形・沼田の減少率についてデータを交えて説明されていましたが、その前段で町長が言われた月形町の場合は平成24年、平成25年の人口が減らなかったのは、刑務所収容者増により刑務官が増えたということで特殊な要因であると言っていました。その特殊な要因を含む期間も含まれた中で減少率の話をここに持っていき、月形はそんなに減っていないと言われていますが、これだと特殊な要因がかなりウエートを占められてしまうので、全体的な動向を見るときにはこの部分を除いてこうだから問題ないということは、なかなか言えないのかなと考えます。それから私が指摘した1年間の急激な人口減少について短期間でここだけを取り上げて問題があると言われてもということでしたが、1年間というのは実は案外短い期間ではなくて、ある程度のパターンが見えるわけです。一番通常と違うかどうかというのは、人口動態パターンを見ながらパターンが崩れていないけれども人口がそのままというのであれば、全体的な流れで自然減あるいは想定内の範囲であると思われませんが、平成25年度のパターンは完全に崩れています。資料は1枚しか提出しませんでした。過去からの流れを見ると本当にこの1年間の動きはかなり極端な動きを示しています。それから26年度に関してはもっとパターンが崩れていて、これは明らかに何か問題があるのではないかととらえられる兆候があると思います。や

はり細々した動きをすぐにとらえて対応していかなければ、行政として人口問題にすぐには何らかの対策が取れないのではないかと考えます。それでデータですが、住民課から出ている物を5歳刻みの年齢で発表しているものがありますので、それを元に私自身も少し分析してみました。私がいただけるデータは転入転出の個別のものはないので、月々の年齢階層ごとの人口データですから、転出がすごく多くても転入も多ければそこはゼロになりますので、正確な数字は把握できないですが、全体的な傾向はある程度見て取れるということです。1年間に極端にそれまでの動向が違うあるいは人口減少の大きかった層は、女性については25歳から30歳、35歳から40歳、55歳から60歳が差し引き人口減少で大きかったです。男子については30歳から35歳が比較的多かったということで、これはグラフの傾きを見れば分かりますが、そのような感じになっています。それから、先ほど学齢期の子どもたちが町外に出ていくことに対する減少について言われていますが、それについては少子化で絶対数が減っていますので、全体にはあまり影響していない。死亡者数が多かったといっても4月から8月までの下数字を見ていただくと分かりますが、33人減少のうちそれほど多くはないということで、例年より4人ぐらい多いですが、そこまで極端に多くはない、弧のようなかたちで表れるほど多くないというのは、私自身、把握しているつもりです。これらを踏まえて、私自身、何か影響がないかと思って色々と検討してみたのですが、その中で昨年11月に大谷幼稚園閉園が決まったことが実は大きいのではないかと。1年間を見てここに書いてありますが、1年前の8月ということでそこをスロットしましたが、特に10月以降の落ち込みは大きいので、ここも何らかの影響があるのかな。もちろん元々秋以降は人口が減少しますので、元々のパターンもありますが、それ以上にそこが増えているのは大谷幼稚園閉園が決まった後の動向が影響しているのではないかと。実際に私のもとには、幼児教育に関係して今までも質問していますし、それに関連して多くのお母さん、保護者、お爺ちゃん、お婆ちゃんからも情報が寄せられる中で「幼稚園がなくなるから月形には住めない。」「子どもに十分な幼児教育を受けさせたいので転出する。」「子どもが幼稚園に入る年齢になったとき、月形町の幼児教育がどうなっているのか不安だから、現状で見通しが立っていない状況だから転出したい。」という声が聞かれて、実際に知り合いの何家族か転出されています。これが全てではないと思いますが、幼稚園閉園の影響あるいは幼児教育に関しての情報不足、見通しが保護者には

不十分だったことも含めて、それが影響しているのではないかと考えるのですが、その点についていかがでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 年代別の数字それから幼稚園閉園決定により減ったのではないかとということで、それらも要因の一つであると考えております。ただ、今回の減を地域別で見ると、北農場第2行政区29人、赤川行政区26人、市南行政区24人、市北行政区19人ということで、全部が幼稚園や刑務所の問題とはとらえると危険であると思います。現在までの刑務所官舎増設前の状況もほとんどの刑務官が単身赴任でありました。奥さんと子供たちは札幌に居て旦那さんだけが刑務所官舎に住むという状況が、今までも行われていたわけであります。ですから、150人体制のときの月形町の刑務官の定住率が60%というのが通例としての数字でありますから、そのおさえをしっかりしていかないと、これも大変、あれも大変であるということで、あまりにも短期的に対応していくというのは、少し物の見方を誤るかもしれないことになるのではないかと考えているところであります。小さなお子さんいるお母さんのアンケートを見ると、もちろん幼児教育、幼稚園教育が大谷幼稚園の状況ではもっと足りないというアンケートがあった。小児科がないから月形町に住めない。児童会館がないので月形町に魅力がないということで、それでは、私たちの町で児童会館が造れるか、病院内に小児科を置けるかということも含めて、全部に答えられるわけではないというのが、実際に行政に携わる身として考えなければならないことであると考えております。ただ、一番気がかりなのは、全道・全国規模で動いていく人たちの動きということではなく、町内に生涯において就職していくという意味では、改良区もしくは月形農協、商工会事務局の人たちが、月形町に人が住んで組織が動いてそこで雇われる人たちがいるという状況で、何人かが町外に出ていったというこれはあまりにも悲しい。移動転勤族としての先生はほとんど町内には住んでくれない、これは今の習性として仕方がないと思いながら、それについてはもう少ししっかり関係団体と協力していかなければならないと感じていたところであります。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今の答弁で生涯月形町に住んでくれると思っていた人たちが町外に出ていくことが気がかりであるということで心情は分かりますけれども、月形町全体を見据えた場合、もちろん元々地元企業で就職されて

いる方の重要性はありますが、転勤族で移動する人でも町民には変わらないし、そこに職場があるとすれば移動する人はいるけれど移動して入ってくる人もいるわけです。そういう人をとらえきれていないこと自体が、町の魅力が足りない、そういう人たちのニーズに応えきれていないのではないかと思っ、て、そこそが人口減少を食い止めるとすれば、動く人を加味して取り込んでいかなければ、うちの町の人口はキープできないわけです。高齢化して長く住んでいる方は、寿命がくれば亡くなってしまうので、外から来る人をきちんと取り入れながら、移動があるかもしれないけれどその方々が単身でなく家族で来てほしいし、家族で来た方が何かきっかけがあって実際にお母さんと子どもが外に出る、お父さんだけが単身になってしまうことを防ぐことこそが人口減少を食い止める非常に重要なところではないかと思ひます。

1 番目の答弁で認識として自由のある人が月形に定住してくれないという認識はあるということだったので、じゃあ、なんで定住しないのかということの答弁が足りないと思ひます。先ほど幼児教育について幼児のいるお母さんにとってみれば、確かに小児科あるいは幼児センターということを上げたかもしれないけれども、先ほど町長が言っているようにその人たちだけではない。刑務所の人、教員、福祉関係全体にいるのだから、その方々がなぜここに住まないのかということの調査をして、把握することも必要であると思ひのです。町内に居を構えようとする人は、最初に転入するときのチャンスは一度しかないと思ひのです。その最初の段階でもし住宅がないあるいはチャンスロスと経済用語では言ひますが、来るべきはずの人が来られないそこを外してしまつたら、増える要素はないのです。そういう意味でその分析、認識、データ解析も含めてそのことをすべきであると思ひますが、もう一度戻つて質問します。先ほど町長は認識として全道規模で動く人の定住が難しいと言われましたが、その要因はどのように考へているのか。それと、色々な対策をしてきたと言われませんが、特段ここ1年間の弧のような下がりするときには、今までやってきたこと以上に何か新しい手だても必要ではないかと考へますが、そこをどのように考へているか、お伺ひします。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 最初に転勤族がうちに定住しない要因は何かという質問ですが、私たちの町には小学校もいっぱいありました。そして、教員住宅もたくさんありました。現在、教員住宅に入居している一般教員はほとんどいない状況になっております。それが転勤族の今や常識になっているわけであ

ります。岩見沢市の空知総合振興局における公営住宅に入居している部長以下の人はほとんどいません。たぶん岩見沢出身ではない人たちは札幌からの転勤族になっている。私たちの町だけが抱える問題ではなく、全道各地においてそういう状況があるということは、ご理解いただきたいと思っております。北農場第2行政地区のご婦人の皆さまと昨年・一昨年の暮れに話し合いをしました。その時に言われたことは「児童会館がない。」「小児科がない。」ということで、その時に言ったことは「岩見沢には小児科どこにありますか。市街地中心にしかありません。美流渡地域にも幌向地域にもない、しかも幌向地域については救急車も入っていないわけでありまして。もし子どもがひきつけを起こしたら岩見沢から幌向へ行って、もう一度岩見沢市内へ向かう、月形どうですか、月形の市街地だったら1分、2分で行って、そこからすぐに岩見沢へ走れる。」私はそういうことも含めたときの本当の意味での大切さについては、しっかりやっています。そのことを魅力として感じとってほしいというお話しをしました。金曜日にお話ししましたが、小学校、中学校、高校の教育環境は極めて素晴らしい、私の子どもを月形で育てたことで大変良かったという評価をいただいているのは、子どもの年代で見ると幼児までのお母さんはかなり不満に思っています。でも、小学校以上のお母さんになると月形の教育は大変素晴らしいと逆転する現象があります。幼児教育として行政ができる範囲内でやらなければならない。でも、幼稚園がないから幼稚園を造れと言われても現状では無理であります。それをしっかり理解した上で過剰な投資をするなということ、宮下議員が言われたことでもあります。過剰でないことでしっかりうちの魅力の説明をしていくこと以外にないだろうと思っております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今の答弁で転勤族が町内に住まないのは、常識になっている、それから私たち町だけの問題ではないということ、最初にされるわけですが、ちゃんと対策を打っている自治体もあるわけですが、今、基礎自治体がやるべきことは、自分たちの町の課題を解決するために施策を打っていくわけですが、しっかりやっている魅力を感じてほしいということで、先ほど刑務所の方々に説明されたということでしたが、実際にそこが伝わっていないのかもしれない。幼児までの保護者には不満があると言っていました、その不満があってもしも町を離れてしまったら、小学校、中学校に入る子どもたちも減るわけです。せっかく刑務官が増えることによって小さいお子さ

んも増えて小学校の子ども数もかなり増えています。現実的に子どもの数も少し増えています。けれども、今、予備軍となる方たちのところが不足しているのが実態であると思います。それから、全体の話をしたかったのですが、町長は学校関係のことしか答弁がなかったのですが、福祉関係の人たちが月形に就職が決まっても年度初めの4月に住居がなければ岩見沢や当別にまずは居を構えてしまう。結局そこに住んでしまったら今更、月形に空きができたとしてもなかなか住むようにはならないわけで、そういう方々の住むチャンスをロスしていると考えます。場所がないだけでなく古いなどの事情があると思いますが、そこをもう少し掘り下げて政策で生かすようなやり方であると思います。つい最近、まちづくり常任委員会で住宅政策についての話し合いがあったわけですが、独身で既に公営住宅に入っていた人は、結婚するとなれば夫婦で入っている人は所得制限があるから住めないけれど5年の猶予があって住むことは可能であるけれど、独身で町営住宅に入れる人は限られていて、独身の段階で外された人は、結婚するから新しい住居を求めたいと思って公営住宅を申し込んだけれど、そのときにまだ結婚前だったら夫婦2人共働きで所得要件に合わない、そしたら入れないのです。それでは新居をどこに構えるかといったら町内は難しいから町外にする、結局そういう人生の機転のところであまり月形に住んでもらえるようなかたちになっていないのが現実であると思います。そこを含めてもう少し解析を進める、聞き取り調査も含めてやってほしいと考えています。

この1年間の減少が短期的にそれだけを見て言うほどのことではないというとならえ方は、非常に悲しいです。物事が動いている状況をすぐさま判断して、先ほど楠議員の答弁でもあったように、これからは時代の変化が激しいから対応力を磨いていかなければならないとされていたのであれば、1年というスパンでこれだけの動きがあったということは、動きに値する事態であると思います。そういう意味で独自に何か、今までやったことについては、よく分かりますが、今までやってきて60人ぐらいで流れてきたのが、特にこの1年間これだけ激しい減だったら、やっぱり新たな検討をはじめるとあるいは何かしら動きがあってもいい、それから次にここがとらえどころだなと思うなど、何かしら動きを見てほしいのですが、そこも含めてできれば前向きな話を伺いたいのですが、宜しくお願いします。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 何が前向きかよく分かりませんが、私は統計を見るときに分母が小さい中でこの数字をとらえて大変だということが、一つには大変である。日本創成会議の数字の見方もあらゆる市町村が問題視するのは分母が小さい中でこの数字を当てはめて30年後に消滅するということと、宮下議員の話は少し似ているところがあると感じているところであります。公営住宅については、公営住宅法を曲げて住まわせるということであれば、それはまた違う話であります。月形町の公営住宅もかなり空き戸数があるという実態であります。岩見沢市の状況も見ての通り少ないと言いながら5%の人口流出で人口が減っているという中で、岩見沢市においても住宅状況はかなり緩くなってきている。それらがうちの町ではない全部の町でそういうことが起こっているという状況の中で、うちの町だけがウルトラCのアイデアを出して、それを何かやりなさいということは、分析もしっかりやっていく、対策も考えて行かなければならないことですが、そのことを持ってして闇雲に住宅を建てる、1人なんぼお金を出すということは、危険であるということです。

○ 議長 笹木 英二 4回終わりました。

○ 議員 宮下 裕美子 最後に1回だけお願いできませんか。

○ 議長 笹木 英二 どのような質問ですか。

○ 議員 宮下 裕美子 今、公営住宅法を変えては無理、統計の話も含めて町長が答弁したところで、どうしても確認しておきたいところがあります。

○ 議長 笹木 英二 宮下議員の場合、いつも1回、2回オーバーして許可しているけれども。

○ 議員 宮下 裕美子 すいません。お願いします。

○ 議長 笹木 英二 これで質疑を終了します。同じような答弁内容でもあるし、今、宮下議員とのやり取りを聞いて、他の議員も聞いて分かっていると思いますが、142人の大幅な減少に対して町は何も検討していないと聞こえたのですが、これは、やはり午前中に人口減少問題の質問者が出たように、人口減少は1人、2人でも気になるものであると思います。亡くなった方がそんなに多くないのにこれだけ減少があるということでは、何か原因があると思います。これに対してはきちんと原因を把握することぐらいはするべきなのかな。それから、先ほど宮下議員が言っていたように幼稚園の閉園決定とともに「幼稚園がなくなるならここに住めない。」ということも、実際昨年2、3人から聞いております。それも原因しているかもしれないし、1年

間で142人の減少があったことについては、町側としても原因を調べて検討していただきたいと思います。